

平成二八年十二月号

気流

佐怒賀正美

走りだす葦原の声冬に入る
懸命に口真似の子や亥の子唄
天近き蜜柑に負けず蝶ひかる
水鳥や夢に気流を乗り換へる
追悼・中村二三恵さん
忽と去り星河に息を取りもどす

平成二八年十一月号

鬼元氣

佐怒賀正美

悼・吉田未灰さん

露けしや山びこ曳いて世を去りぬ
どの魂がどの鈴虫かあふれだす
色鳥や赤子のあくび伝わりぬ
UFOも幽霊も去り秋刀魚焼く
石榴でもなんでも食うて鬼元氣

平成二八年十月号

新涼

佐怒賀正美

老川敏彦さんを偲ぶ

たましひに映る大河や涼新た
頭を抜けて吹き抜がるや流星群
喉越の良ささうな星流れけり
水澄むや化生のものを呼び込む詩
台風の目の刷り上がる合成紙

平成二八年九月号

蟬時雨

佐怒賀正美

ソーダ水はるかに恐竜の目がうごく
のうぜんや天辺になほ未知の歌
銀河より引いて噴水成しにけり
たかだかと火蛾シンデレラ舞ひに舞ふ
蟬時雨いつも行きつく行き止まり

平成二八年七・八月号

箱庭

佐怒賀正美

箱庭に幽霊の出る闇つくる

黴の星見てゐる王子と点灯夫

黴・花粉・宇宙塵身をなまらせず

黴の宿出て快走のプードル犬

E U の離脱に黴に吃驚す

平成二八年六月号

天河

佐怒賀正美

天河より真昼の風や鯉のぼり
山寺の裾広の朝鯉のぼり
すぐに立つ栗鼠の尻尾や青嵐
一点を走り歩くや夏立ちぬ
樹魂から苔匂ひ立つ緑雨かな

平成二八年五月号

雲霞

佐怒賀正美

軽からぬ大人うしの魂なり四月馬鹿
恐竜に惚れる恐竜かげろへる
虫獣の魂も雲霞や花の宴
異界から崩れてきたる花吹雪
春の夜や不敵な面のビオラ弾き

平成二八年四月号

いびつ

佐怒賀正美

宇宙地球草餅いびつ寧らけし
春光や言訳しない我が蛇行
金の輪を春の水もて描きあげる
ふらここや雲井の曲の降りきたる
もう一周多く走る子さくら咲く

平成二八年三月号

鬼

佐怒賀正美

青海波なしつつ春を待てる山
立春やまた戻りくる愚凶り鬼
薄氷や人を赦すに師を思ふ
飛翔せし首の降り立つ蝶の中
白梅や髪なびかせて逃ぐる鬼

平成二八年一・二月号

壇ノ浦

佐怒賀正美

海峡の暁の淑気をたもとほる
馬関への恵方を戻る旅はじめ
初メー_ル旅の壇ノ浦から送信
大竹藪の軋み音冴ゆる平家塚
荒石を盛る平家塚冷えゐたり